家庭数

杉八だより

平成２９年７月２０日
杉並区立杉並第八小学校
夏休み特別号

子供たちの一生を支える夏の思い出

副校長　中澤　郁実

夏になると思い出すのが、６年生で登った尾瀬・至仏山です。頂上から３分の１下ったガレ場で道に迷い、滑落を恐れて家族でビバークしました。ありったけの服と雨具のポンチョを着込み、ロープで腰とハイマツとを結んでじっと動かず１２時間、夜明けを待ちました。

その時気温について体感したのは、①高度 2000m近いと８月でも地面が氷のように冷える②夜明け前に気温はさらに一段下がる③日の出の瞬間に爆発的に体が温まる――「放射熱」や「赤外線」等、温暖化理解の基礎となる自然現象や、太陽は神だと信じた人々の心を肌で感じることができました。

国立公園内だからと火を焚かなかった父は、山の上から小屋に向かって SOS のつもりで懐中電灯を照らしていた小学生の私に「本当に必要な時に使えなくなるから消しなさい」と諭しました。恥ずかしい気持ちになったことを覚えていますが、今、省エネや災害時の節電を考える源となっています。

杉八小では、建築学会の方をお招きして第３学年～第６学年まで環境学習プログラムを行っています。７月１９日には第４学年で、「COOL　BOX（クールボックス)」夏を涼しく過ごす工夫について学習しました。家に見立てた箱を太陽代りのライトで照らし、どんな工夫をすれば温度の上昇を防げるのか実験するのです。木のひさし・すだれ・植物・カーテン・アルミシート等で「さえぎる」「反射させる」「蒸散する」「断熱する」など、熱が上がらない工夫を班ごとに選び比較実験を行いました。

他の学年でも、第３学年「人間温度計」、第５学年「風の道」、第６学年「木のパワー」と、都会に暮らしながら環境と調和し、持続可能な開発という考え方を科学的な手法で体験的に学ぶことができます。授業のコーディネート、実験用具の準備・片付けには学校支援本部にお世話になり、感謝しております。

また、７月１５日～１６日には、杉八小学校地域子育てネットワーク事業「杉八子どもキャンプ村」が実施されました。校庭で煙体験や消火器訓練等の防災ゲームや夕食のカレー作り、テント張り、体育館ではダンボールを使った個別スペース作りなど、日頃の生活の中では体験できないことばかりです。一度でも経験していることは子供たちの心と体にしっかりと残り、万が一の時にも何とかできるという自信となって周囲の人と協力して乗り切ることのできる人間力を育ててくれたことと信じています。

夏休みに家族と過ごした楽しい思い出は、子供たちの一生を支える大切な宝となります。どの子も、４２日間を元気に過ごし、また２学期に元気な顔で戻ってきてほしいと思います。保護者の皆様には一学期の間、ご理解、ご協力ありがとうございました。